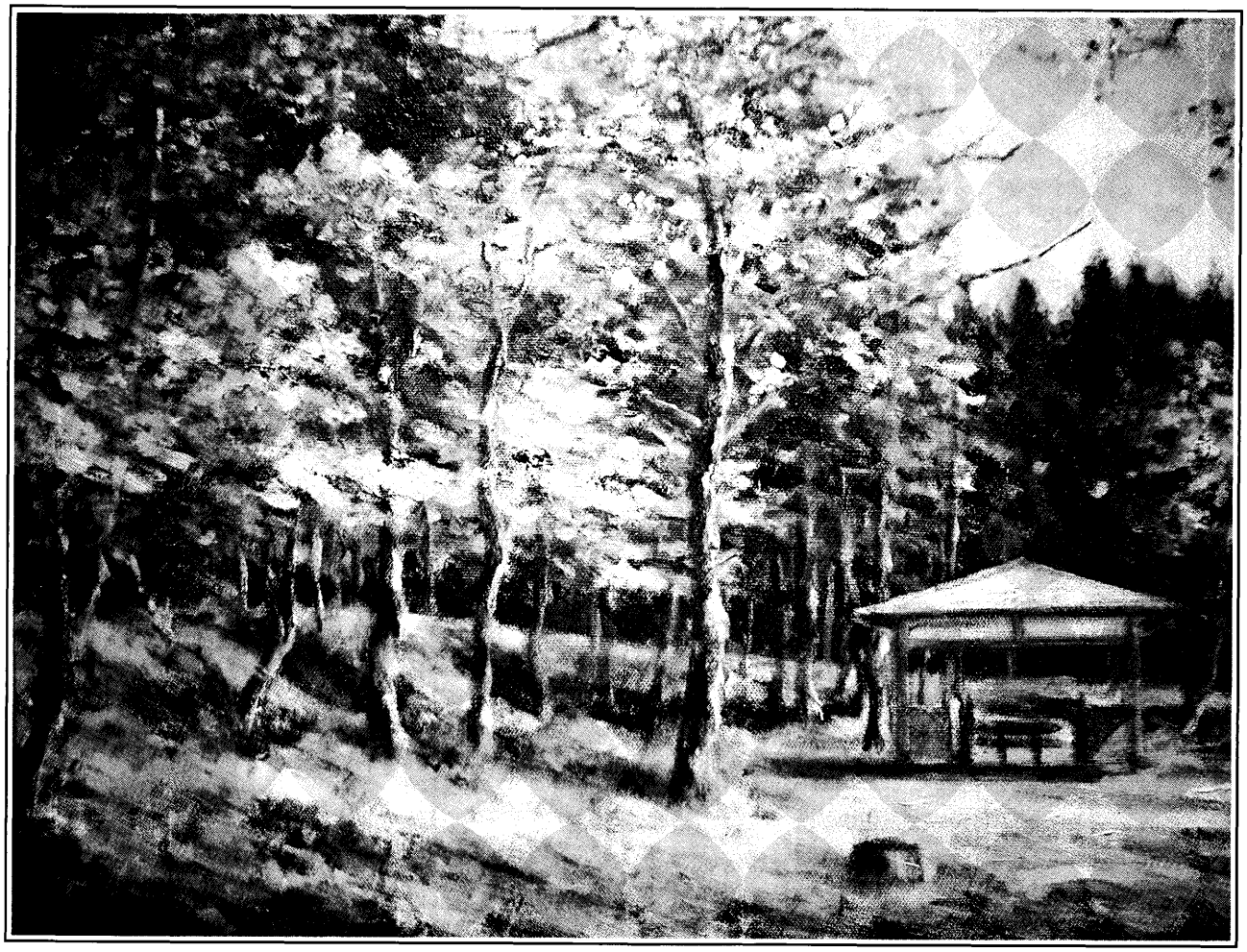
臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成18年(2006)大会号



新潟県立村松高等学校東京同窓会　No. 41

新潟県立村松高等学校東京同窓会
第４９回定期大会開催にあたって

大会実行委員長　**塚田　勝**（高８回）

本日は大変お忙しい中、東京同窓会にご参加いただき誠に有難う御座います。18 年度は６月３日（土）正午、場所も変り千代田区大手町「KKR ホテル東京」での開催となりましたが、１年の経つのが早く、あっと云う間に感じられます。

私がこの大会に初めて参加したのは、市ヶ谷にありました、確か「加茂」であったと記憶しておりますが、その頃は旧制中学の立派な大先輩が大勢出席されており、圧倒されるような思いでした。

時が経ち、現在参加されている旧制の先輩方は数える程になり、新制高校卒が中心になって頑張らなければと思っておりますが、私達８回生も既に古稀を迎える年になりました。東京同窓会も高齢化が進み、大会参加者は前年より増えるだろうかと危惧しております。ご参加の皆様方が愉快に過し、来年も是非参加したいと思って頂けるように種々心を砕いているところですが、会員の皆様にもぜひ率直なご意見をお聞かせ願えれば幸いでございます。東京同窓会の発展の為に今後とも御指導、ご鞭撻を賜りたく、また力強いご支援のほど心からお願い申し上げる次第でございます。

新潟県立村松高等学校東京同窓会
第４９回定期大会　プログラム（敬称略）

日時　平成１８年６月３日（土）正午開催　　会場　KKR ホテル東京・１０F 瑞宝の間

第一部　総　会　―― 司会・進行　亀山　知明(高３回)、高岡　五百子(高１２回) ――

1　開会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　実行委員長　塚田　勝　（高８）
2　東京同窓会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　会長　佐伯　益一（旧中２７）
3　村松高等学校同窓会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・会長　相田　豊　（高９）
4　村松高等学校長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　校長　小島　正芳
5　議　事
　（１）平成１７年度委員会活動報告
　　１）　総務委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・委員長　金子　鶴男（高５）
　　２）　財務委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・委員長　塚田　勝　（高８）
　　○会計監査報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・監　事　佐久間英輔（高６）
　　３）　広報委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・委員長　大橋　貞夫（高１０）
　（２）役員改選について（副会長　八木　又一郎）
　（３）会則改正（案）について（総務委員会）
　（４）その他
　（５）新会長挨拶
6　閉会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・司会者

第二部　懇親会　―― 司会･進行　亀山　知明(高３回)、高岡　五百子(高１２回) ――

1　開会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・司会者
2　乾　杯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・副会長　深見　洋子（高７）
3　アトラクション・・・・・・・・・・(フラダンス)・・・・・・・・・鈴木節子（女２５）他４名
4　抽選会&ジャンケンゲーム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・篠川（高２）・石黒（高９）
5　校歌・応援歌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・全　員
6　手締め・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・渡辺　八郎（高３）
7　閉会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・副会長　八木　又一郎（高７）

会報を再読して・思う

東京同窓会長　**佐伯　益一**（旧中２７回）

東京同窓会々報・第３９号に「**人の話に耳を傾けよう**」続いて同４０号に「**先を読む**」と題して私の考えを述べさせて頂いたが、以来これを読まれた方々が果たしてどの程度理解されていたか？と、甚だ疑問に思っていた。

と、云うのは外部の方からは、ある程度、同感だと褒められはしても、同窓の皆さんから何ら反応が無いことであり、しかも今日に至るも私の言い分が生かされていないのではないかと思ったからである。旧態のままで、人の話は終わるまで確り聞こう、人の発言中は口を挟むべきではないと言う簡単なことが守られていないからである。私を取り囲む何処の会議に於いても、国会議員同士のテレビ討論を見ていても皆、同様である。（私の子供の頃、口出しを「キビチョ」と教わった。急須の横から注ぎ口が出ているからである。）日本人の悪い習性だが、これだけは是非改めていただきたいものと願っている。

若い時、ある有名な政治家の政談演説を聞いたことがある。演説中、若い女性が水差しを載せた盆を演壇へ運んできた。当然、聴衆の目はそちらに向き話は一瞬途切れる。そして政治家は怒った。「この人は私の話の邪魔をしているようなもの。私にとっては敵だ！」と。とたんに大きな拍手が起こった。なるほどな～と感心したことを覚えている。たとえ上から命じられたとしても状況に応じた配慮が足りないなと思った。

さて松高東京同窓会報「臥龍が丘は緑なり」は今回をもって第４１号の発行となる。人に例えれば不惑の歳。惑わず、惑わされずの歳である。昭和６２年６月２７日、高輪の日本鋼管クラブでの東京同窓会大会で、創刊第一号が会員各位の手に渡ってから早や二十年となる。始めのうちは、右も左も分からず、**とにもかくにもやってみよう**と決めてから一回も休まず今日まで続いてきたことを嬉しく思う。当時は資金が足りず広告等で寄付を頂き費用を賄ったものである。

この間、取材や編集に、また写真の撮影等に携わった多くの役員や会員の方々には感謝この上もない。特に中村倉吉、岡本和子（何れも故人）、武藤三郎、澤出赳允、八木又一郎、深見洋子、大橋貞夫、鶴巻浩の皆さんには格段のご尽力とご協力を願った。今は大橋氏が広報委員長として頑張っているのは有難いことである。

因みに「**臥龍が丘は緑なり**」の誌名は私が考えて皆さんの賛同を得たものであるし、書も恥ずかしながら、何回も練習のうえ私が書いたものである。

私は創刊以来の会報を全部ファイルに綴じ込んで保管しているが、相当の重さになる。同窓会の歴史を知るため時々開いて読むが往時が鮮明に蘇ってくる。会員の中でも大切にしている方がいるとも聞いている。

本部会報「松城」また村松支部の「飛龍」を読んでも楽しいが、「飛龍」が村松支部の解散に伴い廃刊となったことは悲しい。これ等の会報が校長室や図書室に保管され、何時でも閲覧できれば幸いと思っている。

さて、此処で話を変える。

東京新潟県人会では、本年四月一日から活動の一環として「**善行顕彰はがき**」を発売することとなった。

県人会報昨年七月号「**随想四季**」に私の考えを述べた「善行・善意」と題する小論が以外に大きな反響を呼んだのには驚いた。足腰が弱くなり、今では杖を利用しているが電車・バスの中で席を譲って貰うことが極めて多いこの頃である。遠慮しながらも「有難う！」と言って好意に甘んじているが、言葉だけでなく、何か行動で謝意を表す方法はないものかと考えたのが、そもそもの発端である。広報委員会は県人会報を編集・発行し、県人会の存在とその活動を広く世間に知らしめる責務があるのだからと昨秋、広報委員会で私の真意を述べ賛同を得た。そして数度の会議の結果、上層部・各委員会にも提案し、幸いに了承を得ることが出来た。

始めの構想とは幾分違ったが、良い結果で実現する運びとなった。長年の夢が叶い嬉しく思っている。

１枚６０円で「はがき挿入パック」に１セット５枚位が適当と思う。衆人の中でこれを差し上げるには、さぞ勇気が必要と思うが是非実行したいと考えている。これは乗り物等の中に限らず、路上の善行等の総てが対象となる。また、各種団体の案内通知などにも使用できるのが良い。ぜひ、会員の皆さんのご理解とご協力をお願いする次第である。「はがき」を入れるビニールパックには次のような文が印刷されている。

『あなたは　善い行いをされましたので、このはがきを差し上げます。あなたがお使いになっても結構ですし、また、他の人の善行を見られた時に差し上げてもよろしいです。多くの人の善意を顕彰し、この運動を広く社会に普及していこうとの趣旨です。思いやりの心で明るい社会を作りましょう。』と。

（県人会常務理事、広報委員）

写真説明

本年３月４日　新潟県人会館で開催された元・山古志村村長　長島忠美氏（現衆議院議員）の「中越地震を語る」文化講演会の後、ゲストに招かれた旧村松町出身で落語家の 柳家さん吉 師匠を囲んで。

（撮影　　県人会　青木写真部会長）

ありがとうございました

①平成１７年度・会費納入された方々（敬称略）

◎旧中の部（１９名）

相田忠亮、五十嵐一郎、伊藤勇五、伊藤秀男、黒井伊作
笠原健二郎、熊倉　悟、斉藤和男、佐伯益一　佐藤豊夫
千代国一、寺田徳隣、　成海正弘、西山荘平、松尾　貢
宮本　昇、武藤三郎、　矢部五郎、吉田公男

◎高校男子の部（９８名）

青木　猛、青木敏和、浅井昭男、新井康夫、　畔田昭義
阿部　勇、安部　實、伊藤　馥、石黒四郎、　石川　滋
稲毛越郎、石本芳雄、今井英雄、大島惣四郎、大西範孝
大橋貞夫、小笠原一憲、小黒正恒、笠原静夫、加藤喜七
加藤清治、笠原大四郎、金子鶴男、金子健二、亀山知明
川合敏男、川村莞爾、　神田弘毅、杵渕政海、木村寿一
熊倉富次、雲村俊慥、　郡司正大、剣持常泰、小池生夫
小出博三、工　幸雄、小日山芳栄、小柳　実、近藤尚志
近藤洋輝、斉藤正義、篠川恒夫、佐々木秀和、佐藤栄治
坂上卓夫、佐々木秀三、佐藤　赳、佐藤良平、澤井　昭
沢出赳允、鈴木健司、鈴木多喜男、鈴木忠雄、鈴木輝雄
杉本芳雄、下野文幹、　新保　優、関塚　豪、瀬倉　薫
瀬倉武志、高岡雄三、　高久貞夫、高地　彰、高山幹雄
塚田　勝、坪谷次郎、　鶴巻旒三、中川善隆、中村雅臣
中山　健、二宮文三、根本俊夫、羽賀道信、長谷川五郎
長谷川吾一、長谷川宏一、服部修治、羽田清之輔
廣田達衛、堀　直昭、　松尾正春、松田輝夫、間藤謙一
丸山貞次、宮沢正由、　武藤正昭、村川恭平、村川五郎
村川忠司、八木又一郎、築取正道、山崎輝雄、山崎豊吉
山田俊治、山中　滋、吉井　清、渡辺八郎
◇平成１８年度分会費前納者――――　高久貞夫

◎旧高女の部（１２名）

石井洋子、一氏愛子、内田道子、大橋玉枝、小林早月
佐藤　治、佐藤玲子、新保清子、鈴木節子、田村ミツエ
藤崎トヨ、前川れい子

◎高校女子の部（４５名）

安達繁子、荒井るり子、飯利　幸、大嶋エミ、大野靖子
緒方康子、岡部ユキ、　小沢幸子、加藤久子、風岡智鶴子
片柳ムツ、川村イク、　神田正子、木村孝子、久我マキ
小島典子、雑賀和子、　斎藤英子、佐藤綾子、佐藤八重
佐々木恵美、白石キヨ、島田淑子、鈴木則子、高尾桂子
高岡五百子、田川百合子、高浜つる子、滝沢美惠子
出口テル、寺山征子、　徳永道子、中島和子、中村エツ
治田レイ子、樋口綾子、深見洋子、松本知子、真水道子
宮腰ヨイ、向山律子、森川弘子、山西愈佐子、横溝田鶴
渡辺厚子

平成１７年度会費納入者数
男子＝１１７名　女子＝５７名　合計＝１７４名

②平成１７年度・寄付された方々（敬称略）

◎男子の部（８名）金額＝１７，０００円

３，０００円　千代国一
２，０００円　小日山芳栄、佐々木秀三、
佐々木秀和、二宮文三
武藤三郎、武藤正昭、吉田公男

◎女子の部（５名）金額＝１１，０００円

３，０００円　大橋玉枝
２，０００円　緒方康子、川村イク、新保清子
横溝田鶴

合計１３名　　合計金額２８，０００円

お願い

村松高等学校東京同窓会は、会員である皆様方の会費によって運営されております。私共役員一同は無駄を無くし、効率よく運営いたして参る所存でございます。
今後とも皆様方のご協力とご支援の程をよろしくお願い申し上げます。

財務委員会・幹事一同

お願い

住所等の変更があった場合、または変更のご予定がある方は速やかに事務局までご連絡をお願い申し上げます。

事務局　〒157-0061
東京都世田谷区北烏山3-18-20
八木　又一郎　方

平成１７年度会計収支決算書

（平成１７年４月１日より平成１８年３月３１日）

新潟県立村松高等学校　東京同窓会

収入の部（単位：円）			支出の部（単位：円）		
特別会計			特別会計		
第４８回大会収入(No40既報)		525,000	第４８回大会支出(No40既報)		534,125
					△ 9125
一般会計			一般会計		
1 １７年度　会費		516,000	1 48回大会　補填		9,125
男子　117名	345,000				
女子　57名	171,000		2 会議費		39,760
計　174名(内2名前年度済)	516,000		（幹事会・広報委員会）		
2 平成１８年度　会費		3,000	3 会報発行費（年２回）		366,690
男子　１名	3,000		編集費	5,120	
			ＮＯ３９印刷費（500）	144,375	
3 平成１７年度　寄付金		28,000	発送費(メール便)	20,640	
男子　８名	17,000		発送費(郵便)	6,670	
女子　5名	11,000		ＮＯ４０印刷費（500）	144,375	
			発送費(メール便)	32,670	
4 利子	40	40	発送費(郵便)	8,790	
			封筒（含印刷費）	210	
			宛名シール	3,840	
			4 印刷・通信費		22,880
			（印刷）	5,480	
			（切手・ハガキ）	17,400	
			5 一般送料（宅配等）		11,060
			6 年会費振込手数料		8,110
			7 現金振込手数料		2,970
			8 県人会対応費		45,668
			（加入賛助会費）	10,000	
			（会報購入・送料等）	35,668	
			9 本部総会対応費（参加４名）		90,000
計		547,040	10 諸経費　（用紙･インク･他）		6,400
5 平成１７年度から繰越		1,184,764	支出合計		602,663
郵便貯金	1,148,006		差引残高		1,129,141
現金	36,758		郵便貯金	1,081,936	
収入計		1,184,764	手持ち	47,205	
合　計		1,731,804	合　計		1,731,804
			１８年度へ繰越		1,129,141

上記の通り報告いたします。　平成１８年5月6日　会長・佐伯益一㊞　財務委員長・塚田　勝㊞

上記の決算書は監査の結果、適正と認めます。　平成１８年5月6日　会計監事・佐久間英輔㊞　安達繁子㊞

平成１７年度 東京同窓会の動き

４月２３日(土) 編集会議（会報３９号）
１３：００ 新潟県人会館
４月２３日(土) 幹事会
１４：００ 新潟県人会館
大会案内状発送作業
平成１７年度大会実施細目
４月２８日(木) 第一印刷へ原稿（３９号）送付
６月 ４日(土) 東京同窓会４８回大会
１２：００ BIG BOX 高田馬場
出席者総数 64 人・会報配布 80 通
７月 ９日(土) 幹事会
１４：００ 新潟県人会館
会報発送 258 通、４８回大会総括
８月 ２日(火) 総務委員会
１７：００東京ガス四谷クラブ
会員拡大、会則見直し、その他
９月１５日(木) 総務委員会
１７：００東京ガス四谷クラブ
会員拡大、会則見直し、その他
９月２４日(土) 編集会議（会報４０号）
１４：００ 新潟県人会館
１０月 ８日(土) 幹事会
１４：００ 新潟県人会館
東京同窓会の運営について
１０月２９日(土) 編集会議（会報４０号）
１４：００ 新潟県人会館
１０月２９日(土) 幹事会
１４：３０ 新潟県人会館
１１月１８日(金) 会報４０号原稿を第一印刷へ
１２月２４日(土) 幹事会
１４：００ 新潟県人会館
会報発送・幹事会・忘年会
２００６年
２月１８日(土) 幹事会
14：00 新潟県人会館
東京同窓会４９回大会について
３月 １１日(土) 編集会議（会報４１号）
１３：００ 新潟県人会館

知己の死

高地 彰（高８回）

生涯で会う機会は少なくても、気心の知れた密度の濃い友というものがある。十数年会わなくても、いつも心の通っている友‥‥。村木榮四郎、旧姓関塚榮四郎君はそういう友であり、村松時代の同級生であった。

平成十年に定年で一旦辞めたが、請われて再び職に就き、去年の三月まで働いた。その数年間に体の不調を感じたが、本人は持病が出たのだろう位に思っていたらしい。が、不調の度合いが増してきたので、遂に退職を決意。引き止めもあってそれは三月末になった。辞めて直ぐ掛かりつけの医者で精密検査をし、大腸癌を知った。直ちに手術を手配し、順番を待った。

手術は五月十日。実はこのとき肝臓や骨にも転移していたが、末期癌だとは告げられなかった。本人は手術後、大事をとれば回復すると信じ実際、七月には退院して快気祝いをした。周囲も喜んだ。

が、それも束の間、秋には再入院となり、病状は本人の気持ちとは逆方向をまっしぐらに進んだ。初冬になって本人から消え入るような声で電話があった。それが私の聞いた彼の最後の声となった。明けて一月二十三日夕、夫人からの訃報‥‥。覚悟していたとはいえ辛かった。

彼は少年の頃から老成した雰囲気を持っていた。小柄な体躯を左右に揺さぶるように歩く姿も特徴があった。本読みの彼からはいろいろ教わった。読書による知的興奮を覚えたのも彼のお陰である。武者小路実篤や堀辰雄、佐藤春夫などをその頃知った。分厚い講談本を読みあさっていた小生には革命的世界だった。関塚君の背中が大きく見えた。堀直明君はその対極で、その他の多くを教わったが、少年時代、この二人の秀才から得たものは少なくない。村松高校卒業後はお互い歩く道を異にした。堀君は途中で九州に去った。

数十年したある日、東京に戻っていた堀君の誘いで堀夫妻、村木夫妻、佐藤匡秀夫妻と小生の四家族が会食することとなり、久闊を叙する機会を得た。以来、お互い所帯持ちになっていたし、酒を好むゆえに毎年何回か夫婦ぐるみで逢瀬を楽しんだ。

村木君とは文通もした。和紙風の便箋に万年筆でさらさらと書いてあるそれは、すでにして文筆家の風格があった。そういう時、友からの手紙と言うよりは高名な作家から貰ったような興奮を感じたものである。幼年から培った精が発散していたのであろうか。

その後またブランクがあって、お互いいつの間にか定年を迎える歳になり、今度こそ自由な往来が出来ると楽しみにしていた、その矢先であった。

一月二十六日、葛西の平安祭典での通夜には続々と弔問客が訪れたが、その多くは国立国会図書館と定年後に奉職した専門図書館協会の人々だった。国立国会図書館は辞めてから既に八年を経過したというのに、祭壇には館長を始め多くの生花が備えられていた。生前の彼の人柄と人望が痛いほど伝わってきた。

御同僚の話ではゴルフ、カラオケと酒を愛したと云う。特に日本酒が好きだった、と。それを良く知る同級の佐々木史郎君から故郷の銘酒が送られており、祭壇に備えてあった。そして控室に飾られた髭の遺影は、短かった一生を知る由もないほど明るく爽やかな笑顔であった。

気候変動について

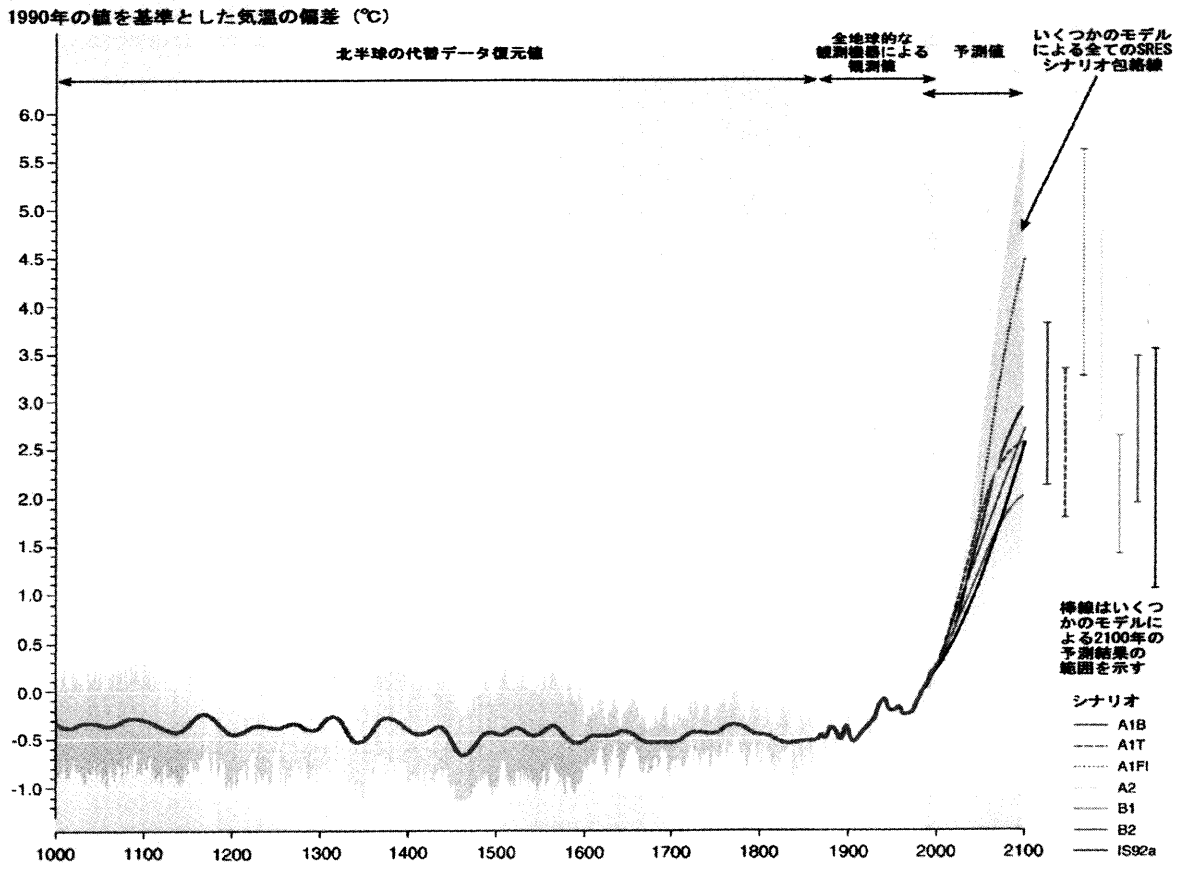
近藤　洋輝（高１２回）

近年異常気象が頻発するようになっています。日本はこの冬寒く各地で大雪となりましたし、とくに郷土の新潟県は、一昨年、昨年と台風や集中豪雨などに見舞われ大きな被害を出しました。世界的にも、一昨年の夏欧州は熱波が続き、フランスだけでも１万５千人近くの死者が出ましたし、昨年は米国南部がハリケーン・カトリーナに襲われ、14 兆円に達する被害が生じています。地球温暖化が進むと、気候の変動幅が増大し、気温でいえば、異常な高温になることがかなり多くなるだけでなく、異常な低温もわずかですがむしろ生じる可能性があります。近年の現象は、予測以上に早くそのような影響が出始めているという見方もあります。

すでに 1988 年には、気候変動に関する科学的な知見を示す国際的枠組みとして「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」が結成されました。IPCC は、これまで３回、研究成果をまとめてきました。図は地上気温の変化で、北半球の年輪その他の資料による推定値、世界の観測値と、未来の予測値を合わせたものです。千年規模でみて、20 世紀以後は異常な変化です。IPCC は発表予定の来年にむけ第４次報告をまとめています。日本では、2002 年に出来た「地球シミュレータ」という世界最高級のスーパーコンピュータを用い、高度な気候変化予測モデルの開発により、最先端の成果が出ていまして、IPCC には大きく貢献できそうです。とくに、日本の夏が今より長く厳しくなることや、台風やハリケーンなど熱帯低気圧の最大風速がより増大することが予測されています。

気候変動に関する国際的な懸念から結ばれた、総論的な気候変動枠組条約は米国も加盟していますが、先進国が温暖化の原因である二酸化炭素などの排出削減を 2008～12 年に達成する数値目標を明示した、各論的な京都議定書は最大排出国の米国が批准しないまま昨年２月に発効しました。2013 年以後については、米国や、経済活動増大を続ける中国・インドなどの途上国も考慮した、新しい取り決めの議論が始まっています。

西暦 1000 年から 2100 年までの地球の地上気温の変動



図の説明：薄い帯状部分は、1860 年までは北半球の年輪、サンゴ、氷床などからの推定気温、その後 2000 年までは観測値で、2000 年以後はモデルによる予測値（排出シナリオやモデルによる違いから幅がある）。太い実線は平滑化した変化。IPCC(2001)による。

「臥龍が丘は緑なり」創刊２０年に思う

澤出　赳允（高６回）

東京同窓会会報「臥龍が丘は緑なり」は昭和６２年６月の創刊から今年で２０年目を迎えます。

創刊にあたり佐伯支部長は「初の試みとして会報を発行することになった。年何回出せるか分からぬが、とにかく一回きりでは終わらせたくない」（創刊号より）

長い間、会報を発行することが出来ましたことは会員の方々はじめ皆様のご協力の賜と厚く御礼申しあげます。

創刊号は昭和６２年６月２７日の大会々場で配付された。大会は午後３時半から「高輪クラブ」（港区高輪）において、総合司会・吉田松二郎氏（旧中23）、司会進行・八木又一郎氏（高 7）、深見洋子氏（高 7）が担当、佐伯支部長（旧中27）の開会挨拶、茂野同窓会長（旧中17）からは母校８０周年を迎える準備が進んでいる旨の挨拶、法性学校長より母校の現況報告がなされた。

続いて懇親会へうつり、川瀬五郎氏（旧中11）の開宴挨拶、長野武夫氏（旧中3）の乾杯音頭によって宴が始まった。アトラクションではキングレコード所属の新川ひろみさん（三川村出身）の熱唱で会場は盛り上がり午後６時半に閉会した。

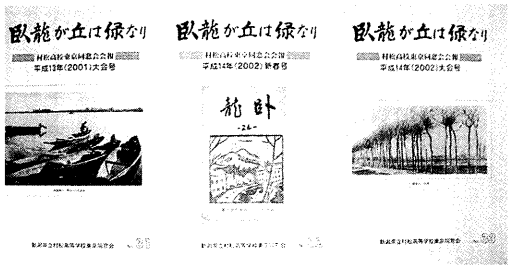
（参考）昭和62年大会の案内状発送総数は835通、転居先不明等で戻り28通、欠席316名、返事なし398通、出席者（会員）は93名であった。（会報２号より）

昭和から平成…昭和６３年、東京支部では新しい時代に適応するよう部会を設け、平成元年３月発行の通巻６号より広報部で編集作業を担当することになった。
編集委員は支部長、事務局長、各部会長と広報部員で構成され、企画から発行まで５～８回の会合・作業を要した。スタート時は原稿をチェックし印刷屋へ渡して作成を依頼していた。会報作成費が支部財政に大きな負担となり、幹事・会員の方々に会報へ広告掲載のご協力をお願いしながら急場をしのいでいた。しかし、そのような状況では長続きしない。編集会議では作成費をいかに削減するかが重要課題であった。

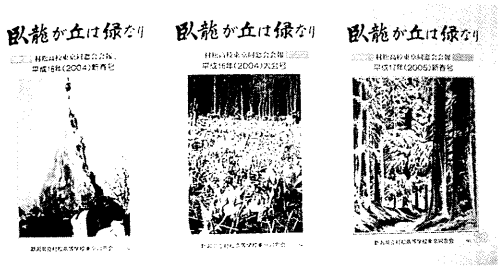
とりあえず編集委員がワープロで原稿をページごとに作成して印刷屋へ渡すことに決めた。寄せられた原稿をワープロで打ち直す作業は予想以上に時間と労力を要したが、その結果、印刷屋での作業工程時間が大幅に少なくなり作成費を削減することになった。

その上、編集会議の場所やコピーまで無料でご提供いただき、また、寄付金を頂戴したりして苦節１０年、平成１０年度決算では過去最高の次期繰越金となり、悩み多き金銭的な問題を一応解消することが出来た。
…おわりに…手書きの佐伯会長にもワープロ、パソコン使用のご協力を頂き、会議作業関連では中村倉吉氏（旧中22）、岡本和子氏（旧女25）、鶴巻　浩氏（高10）には大変お世話になり本当に有難うございました。

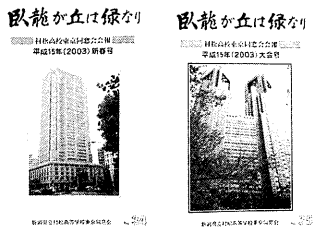
会報３１～４０号の表紙



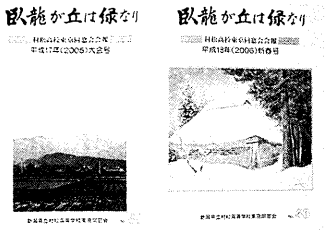
(31 号)　(32 号)　(33 号)



(36 号)　(37 号)　(38 号)



(34～35 号)



(39～40 号)

・創刊号～20 号は 21 号に、21 号～30 号は 31 号に掲載いたしました。

◎ 会報 20 年の概要は次表参照　　（広報委員会）

「臥龍が丘は緑なり」 1～40号までの概要　（氏名の敬称略）

通巻	号名	発行年月	表　　紙	主な内容	主な寄稿・報告等	P数
1	創刊号	昭62.06.27	旧校舎・校門（近藤写真館）	大会プログラム	創刊にあたり	10
2	秋季号	62.11.01	新校舎全景（航空写真）	支部大会報告	臥龍が丘の先輩達	12
3	新春号	63.02.01	浅草観音・龍の絵（佐伯）	新年に寄せて	戦争の思い出	16
4	大会号	63.06.11	村松女学校校舎	会報4号によせて	赤山会のこと	16
5	秋季号	63.11.01	蒲原鉄道・五泉駅ホーム	大会報告・写真	蒲原鉄道の軌道	18
6	新春号	平01.03.01	白山（絵、江口）	表紙が出来るまで	想い出の写真館	18
7	大会号	01.06.03	慈光寺山門（絵、江口）	会員意識調査	裏表紙へ校歌・応援歌	14
8	新春号	02.01.01	校門より玄関（絵、鶴巻斉）	お便りの中から	蒲原鉄道の軌道	16
9	大会号	02.06.16	村松町の地図（国土地理院）	滝沢さん芥川賞おめでとう	・蒲鉄最終回	14
10	新春号	03.01.01	蒲鉄軌道と白山（写真、鶴巻浩）	輝け村松高校	同級会は花盛り	16
11	大会号	03.06.01	臥龍が丘より校舎（昭和16年秋）	母校80周年に出席して	・今村均大将	16
12	新春号	04.01.01	80周年記念式典会場（写真）	80周年関連	思い出のアルバム	24
13	大会号	04.06.06	旧制村松中学校、校旗（写真）	母校の変革	咲花の戦跡碑	16
14	新春号	05.01.01	蒲鉄村松構内（写真、蒲鉄）	第35回支部大会	神風特攻隊	16
15	大会号	05.07.03	村松公園の桜（写真、伊藤正）	国会見学会	同期会おたより	16
16	新春号	06.01.01	タマ公像（写真、鶴巻浩）	同期会等報告	お便りの中から	16
17	大会号	06.06.04	高砂人形（写真、村松役場）	高砂人形について	ちょっといい話	16
18	新春号	07.01.01	蒸気機関車（写真、五十嵐喜作）	同窓会本部総会	クラス会たより	16
19	大会号	07.06.03	田植え風景（写真、八木年秋）	村松30連隊の足跡	大空に散った同窓達	16
20	新春号	08.01.01	堀　直寄公の銅像（写真、佐伯）	浅草ROXで支部大会	・事務局移転（文京区）	16
21	大会号	08.06.01	菅名岳（写真、沢出）	会報の歩み	栄光の松中篭球部	16
22	新春号	09.01.01	白山と白鳥（写真、八木年秋）	戦没少年通信兵の碑	・花すみれ	16
23	大会号	09.06.07	愛宕神社（写真、八木年秋）	生徒数の減少に思う	・お便りの中から	16
24	新春号	10.01.01	東京時代まつり（写真、沢出）	第40回支部大会	新潟県高校野球熱戦譜	16
25	大会号	10.06.06	新津機関区転車台（写真、大原）	校長歓送迎会	石油の町・新津市	16
26	新春号	11.01.01	式三番城町屋台（写真、深見）	年頭での想い	事務局移転（世田谷区）	16
27	大会号	11.06.05	自由の女神（写真、沢出）	歌会始めのこと	東京同窓会会則	16
28	新春号	12.01.01	七福神の図（写真、沢出）	同窓会に出席して	蒲鉄廃止に思う	16
29	大会号	12.06.03	愛宕山より兵舎（写真、酒井忠）	懐旧の情	旧陸軍墓地は	16
30	新春号	13.01.01	越後の民家（写真、沢出）	会報30号を祝う	盛大なり43回大会	16
31	大会号	13.06.02	阿賀・早出川の合流点（八木年秋）	心に甦る旧松中	父がつけた犬の名前	16
32	新春号	14.01.01	校友会誌・臥龍の表紙（佐藤栄策）	新制松高発足当時	懐かしき・あだ名	20
33	大会号	14.06.08	蒲原のハザ木（絵、岡新一）	母校制服の変遷	兄の戦友	16
34	新春号	15.01.01	新しい丸ビル（写真、沢出）	母校制服の変遷	佐渡紀行	16
35	大会号	15.06.07	東京都庁（写真、大橋）	杁差岳登山	村松今昔物語	16
36	新春号	16.01.01	どんど焼き（写真、大橋）	松高の再生をめざして	・同期会、クラス会	16
37	大会号	16.06.19	水芭蕉公園（写真、間藤）	松高後援会の設立	大往生は早すぎる	16
38	新春号	17.01.01	慈光寺参道杉並木（油絵、小出博三）	同期会等報告	蒲鉄の電車	16
39	大会号	17.06.04	残雪の白山（写真、間藤）	16年度決算書	青春の思い出	16
40	新春号	18.01.01	雪の蛭野の民家（水彩画、加藤系一）	同期会等報告	ヤーコンの話	16
41	大会号	18.06.03				16

認知症？

近頃、認知症という文字がよく目に入る。何のことやら分からないので、行きつけのドクターに訊いた。「それはボケのこと、痴呆症のことです。今は、そうは言えないから言葉を探してきて認知症と言っています。病気の本質としては認知不能症でしょうね」と教えてくれた。それで納得。そう云えば、ちょっと古いが、「週刊新潮」に連載している渡辺淳一さんの随筆で「亭主在宅症候群」を読んで思わず笑ってしまった。

これは、会社を定年退職したご主人が毎日、家に居続けていることから、奥さんが外出も出来ず不眠や眩暈を起し高血圧となり、大きなストレスを生じ病気になってしまったと云う話で、笑っている場合ではない話である。

やがて日本も高齢化・小児化が進み「老人性勃起不全症候群」の患者が増えてゆくかも知れない。

（伯）

お便りの中から　順不同・敬称略

雲村　俊慥（高５）

お元気でご活躍の様子、なによりも心強く思います。
「新潟県人」ありがたく拝見いたしました。
先輩の温かい気持が手にとるように伝わってまいります。
素適な先達者に恵まれたことは本当に幸せでした。
どれだけ励ましになったか計りしれないものがあります。
ありがとうございました。

只今、第三弾の注文がきておりますが、同じ物ばかり執筆していては“東京の道案内人”みたいに思われそうなので、今度は全く趣向の違う歴史読物に挑戦しようと考えております。
何時いつまでも御指導くださいますように〜。

佐伯先輩とは年に一度の同窓会でしかお会いできませんが、金子鶴男さん、向山律子さんには、よく会っております。当然、先輩の頼もしい存在が話題になります。

本来なら沈みがちな村松高校の同窓会が、今も生きのびているのは先輩のお陰です。心から感謝するばかりです。取り急ぎ、書籍紹介と同窓会運営についてお礼を申し上げました。

東京新潟県人会広報委員　市川　昭二

会報「臥龍が丘は緑なり」をご恵送くださいまして、誠にありがとうございました。

佐伯会長の理路整然とした立派な巻頭文「先を読む」は流石だなとおもいました。
次頁の水茎校長の不祥事に対しての処置や切々たる苦衷は胸を締め付けられるような迫力があります。

ただ読み易くするのに、お二人の顔写真を入れるとか編集上の一呼吸が欲しいですね。
「日本の英語教育…」を書かれた小池さん。私は旧制の十日町中学の卒業生だけに小池さんが十日町高で教鞭を取られたというだけで何となく親しみが湧いて参ります。
耳の痛いことをおっしゃってますね。
私は中国語を十年ほど学習しておりますが、ヒヤリング、スピーキングは全然ダメ。辞書を引き引き現代中国の小説などを眺めてるだけです。
「変わりゆく村松」の加藤さん、「旧町名看板と社会貢献活動」の伊藤さん、民族的見地からも素晴らしい記録で興味深く、感心しながら読ませてもらいました。そして、三つの写真はもっと大きくしてもらいたいなと思いました。立派な同窓会報、有難うございました。

思いつくままに順不同で書き並べました。失礼の段はご寛容のほどお願い申し上げます。編集各位によろしくご鳳声くだされば幸いです。

（以上・佐伯会長宛て）

山百合

新保　優（高１０回）

山百合は６月の半ば頃に花を開き始める。故里の白山の麓では、梅雨寒の曇り空が続く頃に、黒味を帯びた緑の山裾の中で、明かりを灯したようにぽつぽつと咲いていたのが、私の記憶に残っている。

また初夏の登山道を汗びっしょりになって登っている時、ほのかな香りに気がついて見渡すと、ほの暗い杉の木立の中に、豪華な花が重そうに首をたれており、それを見てとても幸せな気分になったこともあった。

子供の頃、この山百合を畑の隅に植えて、年毎に花の数が増えていくのを楽しんだ思い出がある。

つい最近までは、現在住んでいる横浜市の郊外でも野生の山百合があそこここに生えていた。

この山百合を庭で育てたいと思い、何度か球根を植えたが、つぼみが見え始めるころから下葉が枯れ上がってきて、花が咲く前に枯れてしまうばかりであった。

調べてみると、山百合は最も栽培の難しい部類に入り、森林公園のような、ほとんど野生に近い環境で育てても、限られた場所にしか根付かないそうである。

山百合は、乾燥を嫌うが、水はけの良い土と場所が必要であり、連作障害が出やすいが、植え替えを嫌い、日光を好むが、根元に日が当たるとだめになるなど、相い反した条件が必要な植物であり、人の世でもよく聞くように、華麗で高貴な容姿を持つが、デリケートで扱いの難しい花のようである。

それがなぜ村松で良く育つのか確信はないが、どうも多量に降る雪がうまく働いているように思う。

雪溶けが始まると、雪の下では多量の水ができ、土を浸すので、病原菌や、自家中毒を起こす有害な排出物が洗い流される。またミネラル分なども、このときに補給されるので年毎に土が再生され、良く育つ条件が整うのであろう。

連作を嫌うジャガイモやエンドウなどの作物も、田舎ではそれをあまり気にせずに育てていたように思う。

最近はカサブランカなどに代表される、欧米で品種改良されたゆりの交配種が、数多く出回っている。花の色や形も多種多様になり、とても育てやすくなっているが、山百合の気品と色合いを持つ園芸種はまだ見たことがない。

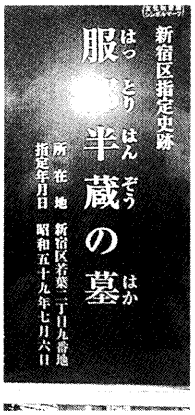
できれば山百合そのものを、育てやすいように、誰か改良してくれないであろうか。

「松五会」第七回江戸・東京歩く会

金子　鶴男（高５回）

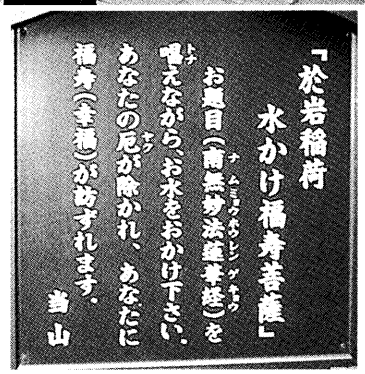
村松高校第五回卒業生「松五会」の歩く会も第七回になりました。今回は「四谷怪談発祥の地を行く」をテーマに午後二時、総勢１５名がJR四谷駅に集合して始まりました。四谷は幽霊話でお馴染みのお岩の里です。また江戸時代には幕臣の屋敷が立ち並んだ所で、時代小説好きにはたまらない一角です。

紀州藩邸に造られた迎賓館を背に



伊賀者の頭領、服部半蔵の墓がある西念寺にて
雲村氏（後ろ向き）の説明に聞き入る

怨念がうず巻く
於岩（お岩）稲荷
陽運院にて



「於岩稲荷田宮神社」お岩を祀るこの神社は、
まさに田宮伊右門の屋敷跡

高４回・東京地区「美術館鑑賞と懇親会」

鈴木　健司（高４回）

「懇親お花見会」と「懇親食事会」がドッキングした新しいスタイルの「懇親会行事」を実施したのは、平成１７年４月でした。ご好評だったと自画自賛して秋にでもと考え、１７年１０月には「根津美術館鑑賞会」と、「懇親食事会」を組み合わせて実施しました。

南青山の根津美術館が所蔵する尾形光琳筆の代表作で国宝の『燕子花（かきつばた）図屏風』は、数年前から顔料の剥落止めなどの修復が行われていました。
その完了を記念して、同館はその国宝の屏風を中心に、光琳の作品約４０点を集めた特別展を開催しました。

１０月１３日（木）１５時、女性１０名と男性１２名の計２２名で入館し、先ず国宝その他の鑑賞に１時間を当てました。根津美術館は複数のお茶室を点在させた立派な日本庭園を備えております。１６時からの３０分は日本庭園の散策となりました。

日本庭園を出た後、歩いて「東京ガス青山クラブ」へ移動しました。所要のため根津美術館には参加出来なかった方々とも合流して、女性１３名男性１６名、合計２９名での「懇親食事会」の開催となりました。遠路はるばる広島からお越しになられた桑田孝子さんのご発声で一同乾杯の後、懇親食事会を開始しました。

春の時も、「飲み会でなく、食事会ですよ」と男性陣に根回しをしましたが、その趣旨でアルコールを押さえて季節の会席料理を味わいながら懇親懇談が続きました。
１６年秋の同期会の思い出話。今年は休会ですが、来年予定の同期会のこと。旧友の消息。お互いの健康談義。
１８年元旦に実現する五泉市と村松町の合併について。それに伴う母校と五泉高校の将来像について‥‥等々。話は尽きず、至福の時間だけが過ぎて行きました。

写真撮影の失敗談を一つ。食事会から参加する方々を考慮して、根津美術館では全員写真を撮らずに、食事会会場で全員集合写真を撮る積りが、スペースの関係で全員の集合写真が撮れませんでした。男性写真は撮らず、女性全員の写真のみを撮りました。掲載写真です。

平成１７年１０月１３日　於 東京ガス青山クラブ
女性のみ全員で

初めての同期会は還暦の年だった

郡司　正大（高１６回）

平成18年３月26日「新宿中村屋」にて同期会が開催された。還暦を記念して行ったわけですから感慨深いものがあります。松高を卒業して以来42年経ち、初めての同期会です。関東在住の50名その他４名、計54名に案内を出し、27名の参加を得た。

さて当日、会場に着くと幹事の小笠原君と副幹事の服部君が待っていた。窓際に座っている男性がいたので、挨拶をしながら顔を覗き込む。42年ぶり「実家がダンスホールの‥‥」笑顔が返ってきた。二人連れの女性が傍らにきた。一人は中村俊江さん。高校３年間同じクラスだった。先日電話で言われた「あんまし話をしなかったね」、オヨヨ‥。連れは仲良しの伊原富貴子さんかな。被服科を出た人だ。しばらくすると世話人の山岸もと子さん、澤田悦子さん、森田勝美さんが受付を始めた。次々と懐かしい顔が入ってくる。一番最後に飛び込んできたのは梁取郁子さんだった。「田舎に住んでいるものだから‥‥」メガネをかけた小柄な郁ちゃん、かわいい‥‥。かつては紅顔の美少年、美少女だった高校生も長い年月を経て貫禄がついたのでしょうか。思い出せなくてお互いに名札を確認しながらの挨拶でも、次第に昔の面影が浮かんできて、高校時代の仲間に戻っていきました。

澤田さんの司会で会が始まった。現役の学校の先生だが緊張しているようだ。開会の挨拶は小笠原君。優等生タイプの彼の挨拶は絵になり流石と思わせる。服部君の喜びの挨拶の後、私も同期会東京支部の立ち上げと経過について報告説明をした。京都より参加した阿部君の挨拶と乾杯で一斉に歓談が始まり、グラス片手にあちこちで話しの輪が出来た。歓談中も次々とマイクを持った顔が続き、思い出や近況を話している。周りの懐かしい顔と話しに引き込まれマイクから飛んでくる声はなかなか耳に入ってこない。話しは尽きないが予定の時間が来てしまった。服部君の閉会の挨拶があり、集合写真を撮って、締めは私の「イヨ～ポン！」でお開きとなりました。
二次会は西新宿のヒルトンホテルでした。

１６回生・初めての同期会　～東京支部～

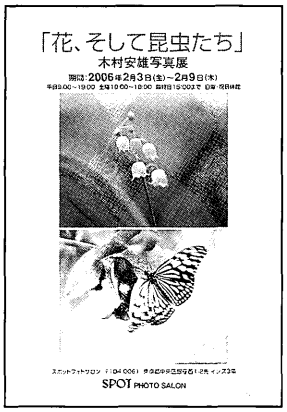
我が友、木村安雄写真展

「花、そして昆虫たち」初個展を観て

若井　俊雄（高１２回）

「新商本間、村松木村両投手好投して見ごたえのある投手戦を展開した。村松はエース木村のノビのある速球が良く決まり、新商打線を牛耳り村松の打線も本間を良く打ち善戦したが、内野のエラーと捕手の雑なプレイで自滅した…云々」。

これは、４７年前の我が松高野球部が甲子園をめざした県大会緒戦で、新商と対戦した時の新潟日報の記事である。新商とは新潟商業高等学校のことで、いつも優勝候補と目されていた。木村と若井とは当時の松高野球部でバッテリーを組んだ間柄である。善戦空しく２－０で敗退し、我々の高校生活（野球生活）は終わった。



何回か彼の仕事や遊びにも同道させてもらい、ファインダーを覗く彼の視線が非常に繊細で被写体に対する気遣いは、内に秘めた感性と優しさなのでしょう。

この、ごつつい男からニンフが漂うがごとく魅了する作品。今回、発表されている数々の作品の中にも、被写体になった花や昆虫たちに対し、彼の優しい眼差しを感じるのです。エロチックな余韻を残す先に発表された写真集『花の妖精たち』と合わせてみたら、何か幸せな気分になったのは私だけでしょうか。

その彼が昔に回帰していく…。村松に、故郷に帰って今までの活動を更に飛躍、発展させた次回の作品を期待している。冬には雪を被った管名岳を、夏には緑濃くなっていく白山を仰ぎ見、早出川でカジカ捕り…。そして春には村松公園のお花見か…木村君、カメラはやはり肩から外せないな。幸いにも私の義妹が村松に在住している。時々帰っているので越後杜氏で一杯やろうな。　いつも素晴らしい感動を与えてくれる友、木村安雄君へ。

写真展にて１２期生　18/2/4　ＳＰＯＴ PHOTO SALON

小出博三氏油絵展

２月２６日（日）～３月４日（土）、小出博三氏（高８）の第８回個展が有楽町の東京交通会館Ｂ１で開催された。最終日に拝観したが、相変わらず明るい色彩で四季を描いた作品は人を魅了して止まない。今回、氏の人柄を少しでも知る手掛りにでもなればと、姉上の高濱つる子さんに執筆をお願いした。　**会場・シルバーサロンＡ**

弟

高濱　つる子（高５回）

私と弟は二歳違いで、生まれは満州国である。余り昔のことは良く覚えていないが、昭和１７～８年頃は父が奉天駅（瀋陽）に勤務していた。昼食のお弁当を届ける為に毎日、母と弟と私は駅まで散歩をした。弟は舗装された歩道やロータリーの石畳の上に、蝋石で飛行機や船やアヒルを飽きもせずに描いていたので、時間までに届けられないことも度々であった。今にして思えば、本当に絵を描くことが好きだったようだ。

終戦後、一家は父母の郷里である村松に引揚げて来た。弟は小学校に入り、図工の斉藤先生に出会って絵を習い始めた。余程ご指導が良かったのか、中学生になっても個人的にスケッチ旅行等に行っていた。高校生になってからは富永先生にご指導を仰いだ。

弟が大学受験に際し絵の勉強がしたいと父に難題を突きつけた。父は、趣味で絵を描くのは良いが画家として身を立てるのは反対と云うことで、仕方なく建築の方へ進んだ。卒業後は建築会社に勤めたが仕事も忙しく、絵のこと等は全く忘れたように話題にもならなかった。

いよいよ定年になって、さて何をしようかと考え、もう一度絵を描いてみようと思ったらしい。どういう訳か、彼は風景画しか描かない。今年で個展も八回目を迎えた。よくぞここまで続いたものと感心している。

一つ不思議なことは、私の家族や親戚中に一人も芸術的な才能を持つ人が見当たらないのだ。全くの突然変異としか云いようがない。とにかく、彼が好きな絵を楽しみながら描けるのは、とても幸せなことだと思う。この人生が永く続くように楽しんで描き続けて欲しい。

続・青春に残る悔い

伊藤　勇五（中３３回）

その保健婦が彼の村へ来て保健衛生の指導をする様になったのは、終戦から８ヶ月近く経った昭和２１年４月の初めだった。２４才で独身、誰にも親切で仕事熱心だったから一様に村の人達に好かれた。幾年も勤めたあと結婚で役場を辞めることになった時、人々は村を去る彼女を惜しんだ。彼女も「私はこちらの村へ来られて幸せでした。張り合いのある毎日でした。こちらに厄介になった日の事は忘れないと思います。有難うございました」と言って帰って行った。

保健婦が忘れないと言っていた昭和２１年４月初めのその日は、彼にとっても美紗子にとっても忘れられない日であった。

終戦の年の９月、予科練から復員して来た彼と同じ頃朝鮮から引き揚げて来た美紗子が、戦争で中断したままだった学生生活の再会について約８ヶ月の充電の後、夫々が村松と新津の学校へ復校、転校が決まり、汽車通学で登校した最初の日がこの日だった。

以来、毎朝村外れで待ち合わせて通った夫々の学校の卒業を来春に控えて、二人にとって最期の冬休みに入った。厳しい寒さが連日続いた昭和２２年１２月、長いあいだ母に灸の治療を続けて呉れていた先生（美紗子の父）が、この寒さで体調を崩して治療に来られなくなった。１０日過ぎても調子が戻らない事から先生の奨めで、村の保健婦が代ってリハビリに来て呉れる事になった。

彼の父は先生の時と同じ様に母のリハビリが終わると彼に保健婦を家まで送らせた。いつも家の前まで来ると彼女は「寄ってお茶を飲んでったら」と誘ったが、彼は断って帰った。

その日保健婦は１時間ほど遅れて母の処へ来た。リハビリが済んで何時もの様に彼女を送って行くと「今朝起きたら電気ストーブが付かないの、そのまま役場へ出たんだけど一寸見てくれない」と頼んだ。彼は言われるまま間借りしている彼女の部屋へ上がった。一人住まいの女性の部屋に入るのは初めてだった。６畳の和室に３畳程の台所が続いていた。南側の窓の手前に炬燵が置かれ、その上に蜜柑を盛った篭が置いてあって、その向こうの壁際にそれらしい電気ストーブが見えた。早速、「ドライバーとペンチがありますか」と訊くと、「来て早々直ぐに取り掛からなくても良いわ、一寸着替えて来るから蜜柑でも食べてゝ」と言って箪笥から衣類を取り出して台所へ消えた。間もなく出て来た彼女は、セーターをカーデガンに着替え、ズボンをスカートに穿き替えて炬燵の反対側に座った。「お茶を入れるわネ」と云って立ち上がると戸棚から茶道具を取り出して用意して呉れた。「そんなに固くならないで良いのヨ」と言いながら「そうだ写真を見せてやるワ」と云って振り向いてアルバムを取り出し、それを持って炬燵の左側（彼の右側）に移って説明を始めた。人の写真なんか本当は見ても仕方がないので、見るともなく、聞くともなく顔を向けて紅茶を飲んでいた。その時、不意に右股に触れてきた彼女の手を感じた。驚いて身を退けた弾みに体が炬燵の足に激しく当った。台にあった飲み残しのカップが転がって中身が零れてしまった。慌てて膝立ちになって拭く物を探したら、彼女も膝立ちになって台の上の片付けに掛かっていた。同じ膝立ちのまま２度ほど体が触れた。急に彼女が両手で彼を抱きしめ、身を預けるようにして押し倒した。

咄嗟には相手の意図が分からぬまま、それを糾そうとした彼の口を彼女は自分の口で塞いだ。（続）

国語教育が急務

【近く、小学校でも英語教育が実施される】と新聞記事で読んだ。中央教育審議会の提言であり、小学校の高学年生が対象で必修化するとある。

「日本語をまだ充分に習熟していない子供になにをバカなことを。それよりも先ず国語教育の徹底を」と思った。造語や、おかしな日本語が蔓延している昨今である。

ガセネタとは一体なんだ？虚偽の情報と書けばよい。又「ヤバイ」とは、とんでもない話。同時に「常用漢字枠の廃止」もと思った。昔からの漢字の造りで意味が分かるからである。拉致をら致と書いているような有り様である。特に最近は横文字の氾濫が目につく。例えば会社名等も殆どが英語か、簡略化したものが多く、何の事業か全く判断できないものが多くある。

だが、此処に一つの面白い話がある。「ダスキン」である。会社を興す時に社長は「株式会社 雑巾」を主張し、社員は「いくらなんでも、それは」と反対し「ダスター」を提案。中々折り合いがつかず妥協案として「ダスキン」が誕生した。そして今、その名と製品は全国区になった。

新聞や雑誌でも回りくどい言葉が多く、著名人ほど難解な表現や横文字を使いたがる傾向にあるようだ。（伯）

――――表紙について――――

表紙の絵は**小出博三氏（高８回）**の第８回油絵展に出品された**「早春の愛宕山」**である。

新緑の遊歩道を散策して、途中の「あずまや」で一休みする。絵を見ながら想像を廻らしていると学生時代が想い出され、懐かしさが込み上げてきた。

第五回ゴルフ親睦会開催

平成１８年4月１３日、入間カントリークラブに於いて松高東京同窓会の第五回ゴルフコンペが開催された。

当日は雨降りの予報も外れ「参加者全員の日頃の善行を天が認めたのであろう」などと勝手に納得して、神に感謝した。互いの健闘を誓い合って、午前8時４９分にスタートとなる。薄曇りの下、桜を観ながらのプレイは壮快な気分で、絶好のゴルフ日和であった。

今回は体調不良や所要のため参加者が少なく寂しい思いであった。いつまでも在ると思うな時間と体力‥‥と思って参加しているが、皆様のお考えは‥‥。

いつもながら亀山氏、吉井氏のお二人には何かとお世話になり、心底より御礼を申し上げる次第である。

がんばりましょう！

訃　報

笹川　隆　氏（高5回）

平成１８年4月２４日にご逝去されました。
昨年の１０月６日、第4回の松高ゴルフ親睦会では楽しく一緒にプレーしたのに‥‥信じ難いご逝去でした。
ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

第六回ゴルフ親睦会のお知らせ

平成１８年１０月５日（木）、入間カントリークラブにおいて第六回ゴルフ親睦会を開催いたします。皆様どうぞ奮ってご参加下さいますようお待ち申しております。
参加を希望される方は下記までご連絡ください。

吉井　清（高8回）・Tel ０４２－５２７－６４８２

第五回ゴルフコンペ

成績（敬称略）

優勝・築野理恵子、準優勝・大島惣四郎，３位・鈴木輝雄

参加者名（順不同・敬称略）

1組　鈴木輝雄（高8）、片柳ムツ（高8）、岡部ユキ（高8）
　　築野理恵子

2組　亀山知明（高3）、金子鶴男（高5）、吉井　清（高8）

3組　大島惣四郎（高4）、坂上卓夫（高4）、大橋貞夫（高１０）

編集後記

東京同窓会で幹事を引き受けて二十数年になる。その間、大勢の方々とお付き合いを願ったが近年、何かと人の世の儚さを感じるようになった。体調を崩される方、急逝される方が増えたからである。

元来、人の寿命は百二十年以上あるらしいが、種々身体に悪いことをするので短命になるのだそうな。特にストレスは万病の元凶と言われ、私も胃潰瘍に長い間悩まされた。

落語を聞かせる病院があるそうだ。腹から笑うことが病気の回復を早め、予防にもなると云う。同窓会も面倒な事は避け、落語でも聞いて寿命を延ばしたほうが賢明かも知れない。歳を経ると顔の皺が気になるが、笑い皺は寿命を延ばすのだから、せいぜい顔を崩して大笑いをしよう！。ダジャレも出来不出来があろうと、おおらかな気持ちで笑ってあげよう。とにかく笑った者の勝ちである。

今回は十二回生と十六回生の投稿があり、会報の将来を担って頂けそうな気配がして嬉しく感じた。せめて三十回生位までのご寄稿を心よりお願い申し上げると共に、また年一回の東京同窓会にも是非ご参加ください。

広報委員会

原稿送付先
〒158 0094
世田谷区玉川四―二十―八
大橋　貞夫　宛
E-mail sadao-o@gb4. so-net. ne. jp

平成１８年6月　第４１号　　表紙の題名・題字は佐伯益一氏（旧中２７）　書

発行人　新潟県立村松高等学校東京同窓会　広報委員会

事務局　〒157-0061　世田谷区北烏山３－１８－２０（八木　又一郎　方）
電話・FAX番号　03－3307－1048

校　　歌

旧・県立村松中学校

浮田　辰平　作詞
曲は　旧軍歌より

1．塵の巷を遠ざけて
雲たちまよふ白山の
麓に立てる松の群
見よ凌霄の気を含む

3．落葉をくぐる流にも
岩石砕く力あり
清きは水の姿にて
強きは誰が心ぞや

5．夫れ英雄も人傑も
人の子吾等が類なり
あゝ松城の健男児
奮ひて起つべし諸共に

あゝ松城の健男児
勇みて起つべし諸共に

旧・村松高等女学校

相馬　御風　作詞
大和田愛羅　作曲

1．愛宕の山のむら松の
みどりの色の常盤なる
操を胸に日の本の
をみなの徳を磨かばや

2．心は身はも真夏なほ
日に輝ける白山の
雪にもまさる清さもて
正しき道を進まばや

3．その名も高きこの里の
桜の花のうらうらと
のぼる朝日に匂ふごと
気高き姿保たばや

県立村松高等学校

相馬　御風　作詞
中山　晋平　作曲

1．普く照らす天つ日の
光を浴びて年々に
伸びてしやまぬ若松の
ときわの志操いや堅き
学徒われらの在るところ
明朗の和気みなぎれり

2．見よ質実に清純に
進取の生気湧き溢れ
文化の花の咲くところ
希望は常に輝ける
道に我らを進ましむ
努めなんいざもろともに

第一応援歌

1．緑濃き臥龍が丘に
轟くは我等が歓呼
若人の高鳴る血潮
たたえつゝ春の日廻る

2．いざ叫べ若人の誇り
わななける力の腕
見よや君歓喜の胸に
輝くは永久の勝利

第二応援歌

1．臥龍原頭幾星霜
切磋琢磨の功を経て
花紅の香に匂ふ
誉れは高き松城の
健児が胸に血や躍る

2．我等がえらぶ丈夫の
誉れは海の湧くがごと
望みは雲の行くがごと
月の桂をな譲りそ
栄ある名をぞとこしへに

第三応援歌

1．松城健児六百が
祖国の為に剛健の
大図をここに定めんと
送りいだせし我が勇士
覇権を譲ること勿れ
我等六百ここに在り

3．今壮快の晴戦
見よ雄叫びの只中に
我等が望み一筋に
肩にぞかかる勇戦士
覇権を譲ること勿れ
我等六百ここに在り